

ネフスキーの足跡紹介

樽商大 来訪100年でパネル展



ネフスキーの家族写真や関連書籍が並ぶ小樽商大付属図書館のパネル展

ロシア人言語・民俗学者ニコライ・ネフスキー(1892〜1937年)の小樽来訪100年目を記念し、小樽商科大付属図書館(緑3)で19日、写真や書籍など関連資料を紹介するパネル展が始まった。

ネフスキーは1919年(大正8年)から3年間、小樽高等商業学校(現・小樽商科大学)でロシア語を教えた。ネフスキーを主人公にした音楽朗読劇が9月に上演されたのを機に同大がパネル展と講演会を企画した。

入舸村(現・積丹町入舸町)出身の妻、萬谷イソさんのおいで、同町美国町に住む三上勇雄さんと妻の二子さんが保存していた家族写真約20枚を大写しにして紹介。ネフスキーの著作「月と不死」、大阪大学名誉教授の生田美智子さん

(日口文化交流史)がまとめた「資料が語るネフスキー」など関連書籍約15冊を展示している。

10時〜午後5時。講演会「ネフスキーと小樽」は22日午後6時から。生田さんがネフスキーの小樽での足跡を紹介する。入場無料で当日参加可。申し込みは同館利用者支援係 ☎0134・27・6541へ。(有田麻子)

小樽副市長に小山氏

市長方針 前 医療保険部長

【小樽】小樽市の迫俊哉市長は19日、2017年12月から空席となっている副市長に、前市医療保険部長の小山秀昭氏(60)を起用する方針を固めた。12月上旬に開会予定の定例市議会に選任同意案を提出する。

小山氏は小樽市出身で、小樽商科大短期大学部卒。小樽市病院局経営管理部長や財政部長などを歴任し、3月に市を定年退職した。同じく市職員だった迫氏の2年先輩に当たる。

小山氏は財政畑が長く、財政難の打開を図る人材として迫氏が評価。市職員時代に企画・経済畑だった迫氏を補佐する狙いもある。

副市長人事を巡っては17年10月、当時の森井秀明市長と対立した市議会が上林猛副市長(当時)の辞職勧告決議案を可決、上林氏は同11月末に辞職した。今年6月にも前市総務部長を充てる選任同意案を否決し、副市長不在が続いていた。

(西出真一朗)